

議会全員協議会
会議録

令和3年6月1日(火) 午前10時35分 開会

- 招集月日 令和3年 5月20日
○開会日時 令和3年 6月 1日 午前10時35分
○閉会日時 令和3年 6月 1日 午前11時27分
○場 所 七戸町役場議会議事堂

○出席議員(16名)

議長	16番	瀬川左一君	副議長	15番	盛田惠津子君
	1番	中野正章君		2番	山本泰二君
	3番	向中野幸八君		4番	二ツ森英樹君
	5番	小坂義貞君		6番	澤田公勇君
	7番	疍清悦君		8番	岡村茂雄君
	9番	附田俊仁君		10番	佐々木寿夫君
	11番	田嶋輝雄君		12番	三上正二君
	13番	田島政義君		14番	白石洋君

○欠席議員(0名)

○説明のため会議に出席した者の職氏名

町長	小又勉君	副町長	高坂信一君
総務課長	田嶋邦貴君	支所長	小山彦逸君 (兼庶務課長)
企画調整課長	金見勝弘君	財政課長	附田敬吾君
会計管理者	高田美由紀君	税務課長	町屋淳一君 (兼会計課長)
町民課長	原子保幸君	社会生活課長	佐々木和博君
健康福祉課長	井上健君	商工観光課長	附田良亮君
農林課長	鳥谷部勉君	建設課長	氣田雅之君
上下水道課長	仁和圭昭君	教育長	附田道大君
学務課長	鳥谷部慎一郎君	生涯学習課長	田中健一君
世界遺産対策室長	相馬和徳君	中央公民館長	高田博範君
農業委員会会長	天間俊一君	農業委員会事務局長	三上義也君
代表監査委員	吉川正純君	監査委員事務局長	澤山晶男君

選挙管理委員会委員長 新 館 文 夫 君 選挙管理委員会事務局長 原 子 保 幸 君

○職務のため会議に出席した事務局職員

事 務 局 長 澤 山 晶 男 君 事 務 局 次 長 鳥 谷 部 伸 一 君

○会議を傍聴した者（6名）

○案件

（仮称）七戸町公営塾の事業概要について

○会議の経過

○議長（瀬川左一君） ただいまから、議会全員協議会を開催いたします。

本日の全員協議会は、町長から開催要求を受けて開催することになりましたので、御了承願います。

初めに、町長より御挨拶をいただきます。

町長。

○町長（小又 勉君） 議会全員協議会の開会に当たり、一言御挨拶申し上げます。

議員の皆様には議会散会后のお疲れのところ、議会全員協議会へ御出席いただきありがとうございます。

本日、御説明申し上げます案件は、（仮称）七戸町公営塾の事業概要についてでございます。

議員皆様も御存じのとおり、少子化による人口減少が全国的に進む中、青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会において、令和5年度からの第2期実施計画の中で、上十三地区の高校から2学級を削減する案が示されております。

七戸高校においては、総合学科が設置された平成8年、1学年5学級200名の定員であったのが平成15年には4学級160名、そして令和元年には3学級120名まで減少しております。

町では、七戸高校は子供たちにとって、また、当町の地域振興の活性化になくてはならない学校だと考えており、先般、七戸高校魅力化構想検討委員会を設置し、高校の魅力化について議論を進めるとともに、中学生やその保護者、高校生にアンケート調査を実施してまいりました。そのアンケート結果を基に、総合学科の特色を生かし、高校と連携した公設民営塾を開設することが高校の魅力をもっと高め、将来的には七戸高校の卒業生が町づくりの担い手となることにつながるものと考えております。

なお、公営塾は地方創生推進事業の一つの施策と位置付け、今年10月の開設を目途に進めてまいりますが、事業概要の詳細につきましては担当課より説明させていただきますので、よろしく願いをいたしまして御挨拶いたします。

○議長（瀬川左一君） それでは案件、（仮称）七戸町公営塾事業概要について説明をお願いいたします。

学務課長。

○学務課長（鳥谷部慎一郎君） それでは（仮称）七戸町公営塾の事業概要について御説明いたします。

説明資料の1ページを御覧ください。公設民営塾の事業推進体制について記載しております。

既に設置されております総合戦略推進委員会を中心に地方創生推進事業の一つとして、関係部署により横断的に取り組んでまいります。七戸高校の魅力化を核とした教育の

充実による地域づくりを目標に高校と連携した公営塾を開設し、学力の向上や、生徒が希望する進路へ進めるよう支援してまいります。

また、総合戦略審議会において、毎年度事業の検証、評価を行ってまいります。

次に、七戸高校の現況について御説明いたします。2ページを御覧ください。

(1)の町内中学校から七戸高校への過去3年間の進学者数について記載しております。七戸中学校ではやや減少傾向にあり、天間林中学校では上昇傾向にございます。

(2)の七戸高校への過去3年間の市町村別の入学者数を記載しております。各年度とも十和田市からおおむね半数、七戸町からおおむね3割、東北町からがおおむね2割を占めている状況にございます。

(3)の卒業生の進路についてですが、各年度で若干の違いはございますが、大学、専門学校等への進学者がおおむね6割、就職者がおおむね4割というふうになっております。

次に、今年2月から3月にかけて実施いたしました七戸高校振興のためのアンケート集計結果について御説明いたします。3ページを御覧ください。

(1)の高校選びの基準についての設問に対して、自分の学力に合う、地元にある学校、学びたい科目がある、夢や目標をかなえるため進学に有利と思うの項目が高校生、中学生、保護者共に高い回答率になっております。

(2)の七戸高校へ望むものについての設問に対しては、中学生、保護者のみの設問となっておりますが、中学生は部活動の充実、学力の向上。保護者につきましては、学力の向上、また高い就職率という項目で高い回答率となっております。

次に(3)の中学生が高校に進学し、高校卒業後の現在の進路希望の設問に対してですが、現時点では中学生、保護者ともおおむね7割が進学、3割弱が就職等を希望している結果となっております。

次に4ページを御覧ください。

(4)の公営塾を開設した場合の利用については、高校生のみへの質問となっておりますが、何らかの形で利用を考える生徒が約7割、利用は考えないと回答している生徒が約3割というふうになっております。

次に(5)、(6)の公営塾での授業回数、また自習室の利用回数については、週1回から週3回の利用を考えるというのが高い回答率となっております。ただし、保護者の回答では週5回以上という回答率が高く、子供の学力向上を望んでいるということが推測されます。

(7)の公営塾を開設した場合の七戸高校への進学意欲についての設問では、進学したいと思う、進学したいと思う気持ちが高まるという中学生、保護者が約7割を占めるという回答率になっております。

次に、公営塾事業の概要について御説明いたします。5ページを御覧ください。

2番の事業期間についてでございますが、令和3年9月から令和7年3月までの4年7

か月間を計画いたします。

3番の実施場所につきましては、七戸高校校舎とは別棟にあります後援会所有の生徒会館2階合宿所を改修して活用してまいりたいと考えております。

4番の事業費でございますが、4年7か月間で約1億7,700万円を見込んでおります。各年度の事業費については記載のとおりとなっております。

5番の公営塾の運営形態ですが、受講対象者についてはアンケート結果を基に、登録受講生の上限は120名程度、1日当たりの受講者数は30名程度を目安に設定してまいります。受講料は原則無料とし、塾の実施時間につきましては平日16時30分から21時30分。土曜日、長期休業中は13時から20時までを設定したいというふうに考えております。

次に6ページを御覧ください。

受講生の指導については1回、1日当たり120分以内とし、年間290日程度の実施日数とします。

(7)の講師の配置につきましては、当町に住居登録している専属の講師を3名配置するという計画をしたいというふうに考えております。

(8)の委託業務の内容としましては、生徒への個別指導及び映像教材を活用しての指導を主に塾を運営していきます。また、③番から⑥番に記載した業務へも対応するものとします。また、受講生の公営塾施設への入退室状況につきましては、メール送信等により保護者がいる場所を把握できる仕組みを構築し、受講生の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

(10)番の公営塾の管理運営につきましては、民間事業者への業務委託として今後公募型のプロポーザル方式により8月上旬をめどに最優秀提案者を決定し、9月からの契約を締結するという進めてまいりたいということで考えております。

最後のページには、公営塾施設の各教室等の配置図を添付しておりますので、御参照いただければと思います。

以上、簡単ですが私からの説明は以上となります。

○議長（瀬川左一君） 説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

発言を許します。

7番議員。

○7番（听 清悦君） 私がこの塾に対して期待するのが、高校入って卒業するまでに偏差値が高くなること、そうなると思っております。もともと偏差値が高い子供が入った高校というのは、恐らく卒業するときもその高い偏差値、例えば60で入った子が卒業するときには60、中学校のときになかなか進路が決まらないとか、目標の設定できずに勉強に対してスイッチがなかなか入らなかった子供が高校行ってから目標が定まって勉強に意欲が出てきたときに、やはり学力がぐっと向上するという部分で、塾は効果的だと思ってるのと、そういう意味で、例えば偏差値が40で入った子供たちが卒業する頃には50になる

とか、その上昇する部分で魅力が高まればいいなと思っています。

それは私が期待することで、2ページの(2)入学者数についてのところの、人数が少ないのですが、その他というところ、この人数をいかに増やすかというところがポイントになると思っています。見ると十和田市、東北町ということで、近隣の市町村で、通学には、町内よりは時間もお金も掛かるのでしょけれども、通えない範囲じゃないということですが、この七戸町が新幹線があって交通の要衝ということにもなるし、市部であれば市内に選べる進学先の高校が幾つもあるのですが、やはり郡部というのは自分の住んでるところから遠くに通わないと高校に行けないということを考えた場合に、塾ももう一つ、下宿先というのあれば、親の選択肢として七戸高校に通わせるといったときに、家からとてもじゃないけど通えないところに住んでいる人にとってはやはりそういった下宿なり、寮なりがあれば、選択肢としてもっと増えるのではないかなと思います。

そこでそういったことについてもこれから検討していくのかどうか伺います。

○議長(瀬川左一君) 学務課長。

○学務課長(鳥谷部慎一郎君) お答えいたします。

まず、入学者数のその他の人数を増やせばよいのではないかと御意見ですが、現在こちらの資料に載せたその他からの入学者というのは三沢市ですとか野辺地町、やはり上十三管内出身の方が七戸高校に入学しております。

また、下宿のような宿舍等をまず整備する考えはないかというところではございますが、町としては、まだそこまでは考えておりません。まずは七戸高校への入学者を、受験者数を増やす、また七戸町内からの中学生が七戸高校を選ぶと、そういったことに力を入れてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長(瀬川左一君) ほかにありませんか。

14番。

○14番(白石洋君) これは、町にとっても大変重要で大切な議案だなと、こう思っています。

ただ、一般的に町民の皆さんから見ると、ひとつしっかりとした説明ができるような、そういうふうな在り方にしないと、変なところで誤解をされたりする場合があります。というのは、県立の高校になぜ七戸町の予算を使っていくのですかと、裏を返せば町の子供たちの学力を上げていい町民をつくらしていきたいのだと、将来に向けて立派な青少年を育てていこうと、そしてまたいい大学にも、七高終わって行ってくればなど、そういう思いも大変重大なことでもあるわけであります。

ただ、今現在のところを見ると、一般的には小学校の子供たちで塾に通ってる子供たちが五、六千円ですな、1時間。それから中学校が七、八千円ぐらいになるのですか。それからまた十和田市に七戸から通ってる子供さんのお父さんから聞いたら1万円以上の、学校終わってから、土曜日の1時間をやるのだそうですが1万以上掛かるというようなこと

もあるわけですので、そういったことに対するお金の使い方等についても、うちの子供たちもなと思うのだが、七戸高校に入っていないからどうしようもならないのだと。そういう思いもあるし、それからもう一つは、この七戸高校に通っている子供たちだけ、それは他町村から来てる子供たちもいるわけですので、なぜその他町村から来ている子供たちのことまでやらなきゃいけないんだと、さっきの話と同じような形もないわけじゃないわけで、あるわけですよ。

実際、今の若いお父さんやお母さんが一生懸命、苦勞してますから、金銭的に。それから部活の問題も、これ当然今のこの問題に兼ね合いしてくるわけですよ。これもまた金が掛かってるわけですよ。野球やろうがサッカーやろうが、剣道やろうが、テニスをやろうが、みんなそれぞれ金が掛かってることもまた事実なものですから、非常に支出が多いわけですので、反面から見るとうらやましいわけですよ。そういうことを七戸高校に入ってる人たちにために他町村であれ何であれとにかく支援してくれているんだと、非常にありがたいことだけれども、こっちから見ていると、ちょっとよだれが出るなというふうな思いもされてる方もないわけじゃないわけですよ。

だからそういうふうな辺りをスムーズに我々議会も、どういうふうなことで議論いたしましたかとか、どういうことでこうなりましたかというようなときにスムーズにやっぱり答えて理解をしていただけるようなことに、やっぱり我々はもっていかなきゃいけないという思いがするものですから、この辺りを、どういうふうにこれまで議論してきたのかというようなことをお尋ねをしたいのですが。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） 白石議員の御質問にお答えします。

七戸高校というのを、要するに七戸町の子供が30%、東北町の子供が30%、そして十和田市の子供が50%、これはもうずっと前は七戸高校が大体、七戸町が4割から6割ぐらいという、こういう推移の中でいってます。こういう状態になったということは、要するに七戸高校はこれから存続するかどうかということがすごく大事な要件になったのですね。

そうすると、現在クラス数がずっと減ってきて1学年3クラス。そうしますと、先ほどからも皆さんが危惧されることは、いろんな部活動にしても、子供の数が少なくなっていくと部活動もできない、いろいろなところで支障がでてくるわけです。そうすると、授業においても足りない教科が出てきたりする。先生方が足りない。では、これらをどのようにして解決していくのかということが、まず一つは、3クラスで一つの枠組みをまず維持したいということですね。そうすると、120人定員。

ほとんどの場合は、今いろんな公営塾取り組んでるところは40人で1学級で、41人になると2学級というふうになるのですよ。ですから、そののしぎ合いの中でやってくる。けれども、今、七戸高校は現在は3学級のところで推移しているということです。そうしますと、幾ら七戸町の子供たちが七戸高校に全部入ったとしても、ここずっと10

0人ぐらいしか推移していかないのですね。そうしますと、学級数も3クラス維持できない、そうするとあくまでも高校ですからいろいろな地域から来て、その学校の中で切磋琢磨して生きてくことがまず私、必要ではないだろうかというところでは。

そうしますと、七戸町の子供だけを七戸高校に入ったら面倒見ていきますかということになった場合、ではその学校の中においていろんなところから来た子供たちも育てていきたいということが当然出てくると思います。そうすると、県立高校であるがゆえに、七戸町の子供たちだけが来たからその子供たちを面倒見ましょう。という形で、果たしてオーケーするだろうか、県立高校が。あくまでも入ってきた子供たち全員を育てて、七戸町の中で、七戸町はこういういろんな塾をやりながら子供たちを育てていく、そうすると、その子供たちが七戸高校に入って私は一生懸命それなりの勉強をして大学とか、いろいろな仕事をしてよかったなということ自体は七戸という町に対して非常に好印象を持つだろうということでは。

それから、その子供たちが七戸高校に十和田市から入ってきたにしても、七戸町のいろいろな歴史とか、いろいろな取り組みとか、それ等についてある機会を捉えて勉強していくというような形にしたら、ちょうどうまくいくのではないだろうかというところで、前の校長先生ともいろいろ話をした結果においては、七戸町の子供だけではなくて、七戸高校に入ってきた子供たちも均等に面倒みて行って、七戸高校という学校、行きたい学校、そして親御さんも行かせたい学校という形につくっていたほうが成果があるんじゃないかというふうな話になりました。

そして、あとは葛巻とかいろんな学校さんを見て勉強していくという流れになったということでもあります。御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（瀬川左一君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） 非常に前向きに物事を考えていらっしゃいますし、それからかつては、教育長も七戸高校の先生であったわけでありますので、その実情というのですかね、学校の中身や何か、それは人はそれぞれ変わるにしてみても、七戸町、七戸高校の流れというのは大体つかんでるんであろうと、こういうふうに思っているのです、非常にある意味では心強いなど、そういうふうに思っているわけですが、さて、この子供たちがこのアンケートを取ったときの集計結果について、このとおりの程度行けば、それはそれでいいでしょうけれども、やっぱり子供たちのことですので、そのときや、あるいはまたその年、年によって流れが変わっていく可能性もないわけじゃないと思うのです。そうした中で、その30人ですか、一日30人ぐらいの指導をしていきたいのだからという人数がまとまってくればいいですが、コンスタントにその数を抑えていけるのかどうかというようなことです。これ大きい、私は問題だと思うのですよ。

そうでないと、びりびりっておかしいけれど、おいなんだってわけにもいかないでしょうし、だから塾そのものの在り方についてもきちんと理解し、了解してもらって、それは

子供たちばかりでなくて、父兄ともよくお話をしてやっていかないと1億7,000万も8,000万も掛けた価値が出てくるのかどうかという問題と、それからもう一つは、この七戸町におられる3人のOBの方か何か分かりませんが、まず先生をお願いするのだと、こういうふうになっているわけですが、あとのことについては七戸高校に勤務されている先生方との協力の状況があるわけですよ。だから、そのときにうまく話の具合が、その塾の進め方等による教師としてのお互いの意見やなんかをうまくまとめて、その3人のうち、例えば学校だと校長先生いたり教頭先生いたり、主任の先生がいたりとかっているような物事をまとめてくるわけですが、3人のうち誰がそんなことをまとめて、そしてまた高校は高校でまた校長先生がおって、みんなちゃんとやって運営してるわけですから、その下にいる先生方と協力体制をとるときに、うちの学校そこまでは協力できませんよと、そういうつもりじゃありませんよとか、あるいは校長先生によって、学校運営、学校経営が変わっていく可能性だって十分あるわけですよ。

そういうところをよほどうまく綿密につかまえていかないと、いやいやこれとんでもないことになってきたぞという話になれば、それ怖いですよ。だからその辺、非常に微妙なところがたくさん私あると思うんだよ。

それからもう一つは、今度は塾のあれで勉強が終わった後、8時までという時間帯ですので、それ平日、土曜ですか、これも8時までやることになってるものですから、特に男女の問題だとか、交通事情の問題とか、それから今度は、うちまでの、そういう男女間の問題のほかに、うちまで帰ることで、家族で送り迎えしてくれればいいのかも分からないけども、そうでない方の足を今度はどういうふうにしていくかというようなこともあるわけですよ。

そういうことで、非常にこれは簡単に口で言うようなものではないなと思って、実はいるわけですよ。そういうふうな辺りをどういうふうにしていくのか、そしてまた、そこまでは考えていないことになるわけでしょうけれども、このことが、2年たち3年たち、こういう情報というのは今、すぐ全国ネットで広がっていくわけですので、例えば最近ずっと一般社会の中では農業をやりたいというようなことで、東北が非常に見直されてることもあるわけですよ。そういった中で、その子供たちが今度は将来東北へ来て農業をやりながら、まずその地元で勉強をしたいと、こういうことをネットで調べてみたらあるんだというようなことになったときに、それこそさっきの市議員の話じゃないが寮を設けるとか何とかというところまで、それは今すぐの話ではなくて、将来的にそういうふうなところまでずっと持っていけるような、やっぱり体制づくりをしていくことが私は大事ではないか、そういうことがやっぱり人口減少している最中で、一人でも二人でも支えていけると、そういうふうな物づくりについても、私は考えていってほしいなとも思ったりするんですが、その辺いかがでございますか。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） いろいろな細やかなところまで質問ということになりましたけ

れども、高等学校との連携は綿密にしていかなければ、今の公営塾は運営できませんので、その辺はきっちり校長ともお話ししておりますので、それから子供たちのこれからの帰る時間とか、それ等についても、いろいろな視点から捉えて対応していきたいと。

いろいろな意味で、こういう公営塾を経営している会社さんとかそういうところでは、いろいろなノウハウを持っておりますので、その辺もうまく活用しながら、お互い話し合っただけで対応していきたいというふうに思っております。もう最初からそういうのは、公営塾する場合においては、いろいろなところで折り込みのことでありますので、こぼれのないように対応していきたいと考えております。

他県からということですがけれども、これに関しては六ヶ所村とかいろいろなところでやろうとしておりますけれども、今すぐということではなくて、たしか私の記憶では2年後、県の方では一部の学校に導入したらいいだろうというふうな答申してようでしたけれども、今現在は七戸町ではそういうところは考えておりません。

ずっと先についてはちょっと分かりません。これは県の考え方等も出てくると思うので、今現在は考えていないというところで御理解いただきたいと思っております。

○議長（瀬川左一君） 14番議員。

○14番（白石洋君） 最後にもう一つ、ちょっとこれ今変な聞き方になるかもしれませんが、実は他校に行ってるんだと、七戸高校じゃないんだけども、七戸町出身の子供たちで、ぜひその塾で勉強したいんだというときは、やはり駄目ですよと、こういうことになるのでしょうか。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） 今現在、七戸高校ということの一つの箱の中で考えておりますので、それは今のところは考えておりません。七戸高校に入った子供たちということで御理解いただければ非常に助かります。七戸町の将来に向けての活性化の位置づけの中に七戸高校があるという視点でとらえていただければ助かります。

以上です。

○議長（瀬川左一君） ほかにありませんか。

12番議員。

○12番（三上正二君） 私の立場で言いにくい話ですけど、6ページの（7）の七戸町に住民登録してる専属の講師3名の配置、この辺のくだりのところは、たしか前に聞いたときは別にこれ七高のOBとか今七戸町にいるってということじゃないですよ。その辺のところもちょっと説明してもらいたいと思っております。

それからもう一つ、白石議員が言うように、この講師3人の講師だから、この講師はこれは、どうもこういうところ行きたくない、当然出てくるのさ。

これ一つの案ですよ、こういう塾でやっていると、生徒そのものに毎日その講義を受けたあと、点数評価させるそうです。今日はよかった、今日のこの講師は駄目だ、そうすると講師の先生方も、私の評価がいいとか悪いかという形でやっていくのも一つの人を集める

という、関心を持たせることだと思しますので、その点を一つお願いします。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） 三上議員の御質問にお答えします。

住民登録してる専属の講師ということですがけれども、まだこのプロポーザルとかそういうのはまだやっておりませんのであくまでも今のところ、こちらで考えてることなのですからけれども、こういういろんな教科の勉強等を専門にして、その会社の中においていろんな子供たちの生き方とか、心のケアとか、そういうみたいなもの等を全部周知した講師の方をこちらでは希望してるわけです。ただ、教えるだけ、塾の、専門的に教えるだけではなくて、ある意味では子供の心もカバーしてくれる講師を何とかお願いしたいというのがプロポーザルの中の一つの項目でありますので、そういう願いが叶えられるような企業が応募していただければ非常に助かるなということです。

非常に大事なところなのです。本当にこれだけは慎重に対処して行きたいというふうに思っております。

○議長（瀬川左一君） ほかにありませんか。

9番議員。

○9番（附田俊仁君） もしこれ、10年前にこういう塾ができていれば、私の子供たちを八戸にやらないで七戸に上げたかったところです。それぐらい今この塾の威力というのはあるというふうに評価してまして、ただ、結局、総合学科というものの考え方と普通科何が違うのって、初めてこの間伺って分かったのですけれども、本来自分が、明日の一般質問でもちょっと義務教育の中で触れるのですけれども、目的意識を持った子供たちが物事に向かったときの力っていうのは半端ないんですよ。その半端ない力をどうやって引っ張り出すのか。それは大人だったり、親だったり、周りの友達だったり、学校の先生だったり、その影響はどこでどう受けるかは分からないじゃないですか。

でも、この3万点でしたっけ、講義の数が、その中から自分が思う方向に向かって進んで行きたい子供、まずそこに目的、目当てというものをを持たせる必要がありますよね。私的には、例えばこれはちょっと失礼な話かもしれないですけども、三本木高校に行ってる子供たち、七戸町から結構いらっしゃいますよね、そういう子供たちが七高を選びたいと思えるような形が取れないものか。ということは、今の七高の中での始めるわけですがけれども、もっと中学校にアピールして行って、もしくは高校、七高の教室、学校敷地内にある教室に中学生たちが入っていけないものだろうかという組み立てを考えていただきたいと思っています。

そうすることによって町民、義務教育である町の教育委員会が所管する子供たち、生徒に対する公平性というものが確保されると思うのです。結果、三本木高校を選ぼうが八戸高校を選ぼうがそれはどうでも自由の選択なわけだというのがまず1点。

あと、事業費の中の3,000万猶予の毎年お金が掛かるわけですが、先ほど14番議員も申し上げていましたが、公平性という意味で、私ももれなく塾に通わせました、

子供たち。月の月謝はたしか1万5,000円か6,000円ぐらいだったかな、中学校の時のお話です。今やろうとしているこの塾というのは、一人頭何ぼ掛かるんでしょうか。要は、この塾を維持経営していくためだけでも相当な金額掛かってるはずですよ。であるならば、受益者負担の観点から、その受講する生徒たちにその授業料は持たせられないものかどうか。

この基準を見ていくと、4ページの5番に週1回の利用というのが26%、週2回というのは34%です。週1回で月、月謝何ぼ掛かって、週2回で何ぼ掛かるんですかという、要は週1回、月4回受けても同じ金額、8回受けても同じ金額であれば、それは週5回行ったほうがいいですよ。その方が安くなる。であるならば、回数でもっとこの人数を突っ込めるものなのか、人数で制限されるものなのかによってまた変わってくるわけですよ。というところの、組み立てをもう1回考え直したほうがいいんじゃないかというふうに、これを見て感じてるところですが、いかがなものでしょうか。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） なかなか難しい質問に頭の中計算してもぱっとは出てきませんでしたけども、公平性と言っても、私は今公平性ということですけども、もう一つの方法は確かにあるのです。ただし、それでも100%私が考えても公平性にはならない部分があるのです。

それは要するに、今現在は私のほうでは考えて、将来的には考えなければならないのかもしれないけれども、三本木附属中学校は併設型ですよ、あそこは。試験をやって県のほうですよ。だから全てにおいて、県民にとって全て公平かということ、あの学校一つだけで、そう考えるといろんな視点から考えたら、私は公平性なかなか難しい。ちょっとそれはさて置いてということなので。では七戸の今の町の中で公平性というとするならば、するならばですよ、一つの方法とすれば、中学校と高校と連携をするという一つの方法があります。これは、今皆さんが考えて、今最初のスタートのところでこれから七戸高校といろいろな取り組みをしてどうなるか、先のまだ、そこまでは目安はないわけです。

だから、いずれにしても中学校と高校と何らかの形で七戸町の高校とコラボするというようなことは一つの考え方としてあるのかなというふうに思います。実質やった高校は、私の記憶の中では大湊高校が総合学科の時、中学校とちょっと連携型ちょっとやろうかなというような記憶がちらっとありますけども、今現在はなかなか、田子高校もそれに近いことをやろうとしたんですけども、なかなか。ということなので、ちょっとそれ等はこれから検討してみたいなというふうには思います。だから、今すぐはその公平性についてはちょっとお答えできないのが残念かなというふうに思います。

○議長（瀬川左一君） 9番議員。

○9番（附田俊仁君） 公平性というのは、皆に平等にということではないのです。要は、やりたいという選択の自由がまず、別の考え方でありますでしょう。ということは、その入りたいけど入れないという状況がまずいのであって、やりたい子供にはどんどん受

けさせるべきだと思う。そういう環境をつくるのが町の教育委員会の仕事ではないのって私は思うのです。

そうなったときに、県の教育委員会の管轄の七高に、どう初めて町の教育委員会と県の教育委員会がコラボするという形が当然できてきて、当然のごとく町のほうからも七高の教室を使わせてくださいという逆なお願いにもなろうかと思うのです。でも、それは子供が行きたいという子供が行けるという状況をつくって上げるということの話であって、みんなに平等にということではないです。

塾だって公設の今の塾もあれば、普通に東進とか、具体的な名前を挙げて申し訳ないですけども、違う私立の有名予備校というのは当然あるわけで、それはどこを選んだって構わないわけです。ただ、基本たしか8,000円でしたっけ一人頭、ライセンス料。ということは、1年間で9万6,000円、6年間通ったって60万いかない金額なわけですよ。例えば私学の大学に行ったときの授業料と、国立の大学行ったときの授業料っていうのは、私立はもう文系で110万ぐらいかな、理学だと150万近く、医学部になれば250万とかという話です。例えばそうなったときに、60万の出資、子供を中学校高校6年間、例えば通わせるとして、50万の出資がたった1年でもと取れるようになるでしょう。私学にいかなくて国立に行けるとすればですよ。という考えた方をしたときに、では親の負担は高いのか、1か月8,000円は高いのかという話になるんです。なので、そういう公平性という意味でいうところの考え方は選べるところをつくるべきではないですかということです。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） ごもっともな御意見だと思います。反論はしません。

以上です。

○議長（瀬川左一君） ほかにありませんか。

13番議員。

○13番（田島政義君） 私は、やっぱり高校を七戸からなくしたくないという町民の願いと町の願いであれば、我々議会は、あまりまだやりもしないのに細く言わないで、私はやっぱりやらせるべきだと、それ頑張ってもらおうと。それからいろいろなあれを話ししないと。五戸町は、独自で高校をやっぱり残したいと、あの頃はやって、そして3億までだったら町は毎年出してもいいという話だけど、何せ計算したら年間5億ぐらい掛かると、それだと町の財政はとってやれないので、諦めたというのが五戸ですよ。そうしてうちに統合とか様々になるので、今は町が高校なくしたくないのであれば、せつかく町が教育委員会と話をしてやるのであれば、議会もそれにやらせて頑張ってもらって、なおかつ駄目なところ見えたらそれは注文付けたほうがいいのかと思ってます。頑張ってください。よろしくお願いします。

○議長（瀬川左一君） ほかにありませんか。

11番議員。

○11番（田嶋輝雄君） 同じ立場で13番の田島議員と同じ意見ではございますけれども、まず七戸町から七戸高校をなくしたくないというのが大前提だと思うのです。それがやはりどうしたらいいか、こうしたらいいかということで七戸高校の塾というものを考えたとはいえますけれども、私はその塾というものに対しては大変大賛成です。

ただ、この塾に魅力があるかないかは先生に掛かってくると思うのです。先ほど（聞き取れず）兼ね備えた先生ということで言いましたけども、果たしてそれがどのような形の先生が来るか分かりません。けども、そういった魅力のある先生がいればこそ、この4年と7か月の間で少しずつは向上していくと思います。

そして、またその塾にしたいという、そういう希望のある学生は、本当にしたいのかしたくないのかというのはそこで選別されていくと思います。本当にやっていきたい、将来はもっといい大学に行きたい、将来はもっといい大人になりたい、そう思うのであれば、目的を持つのですから、一生懸命やると思うんです。そこの差が恐らくまた生徒の中で差が出てくるような気がするのです。

けども、それはいたし方がないことでありますので、十分なこれ説明を、保護者にもそうですけども、生徒に十分な説明をして、これからやっていかなければならないのではないかなと思います。そこのところを、教育を含めて頑張っていたきたいと、そう思います。

○議長（瀬川左一君） 教育長。

○教育長（附田道大君） 本当に、十分に説明してやっていきたいと思いますので、御理解いただければありがたいです。

○議長（瀬川左一君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（瀬川左一君） 質疑がありませんので、質疑を終結します。

以上で、本日の議会全員協議会を終了します。

お疲れさまでした。

閉会 午前11時27分

以上の会議録は、事務局長澤山晶男の記載したものであるが、内容に相違ないことを証明するため、ここに署名する。

令和3年 6月 1日

議 長